

ハックアンドスラッ
シュ・イン・エロト
ラップダンジョン学園
序章

集合した中隊

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

エロゲの不遇キャラに（意識だけ）転生して、その子と一緒に生きるために頑張る話。

目次

ハックアンドスラッシュ・イン・エロト	
ラップダンジョン学園序章	1

ハックアンドスラッシュ・イン・エロトラップダンジョン 学園序章

こわいゆめを、みたの。

おとなになった、たぶんわたし。おなじくらいのとしの、おとこのひととおんなのひと。
と。

おこっている。どなっている。

『やくたたず。』『あしでまとい。』『このパーティーからぬけてもらう。』

ひとりぼっちのわたし。

うごかないからだ。

モンスターがちかづいてきて。

いやっ!!

・・・やっぱり、ゆめだった・・・。

「そう、夢。でもただの夢じゃないわ。」

だれ?・・・あれ?わたしにそっくり・・・。

「私は貴女。未来の貴女、オニキス・カーボナイよ。ねえ、今の私。さっきの夢は、このままじゃそうなるかもしれない未来よ？」

よくわかんない……。

「今のままじゃ貴女はみんなから見捨てられて、ひとりぼっちのまま死んでいくわ。」

わたしが、〃さいのうのないこ〃だから？

「〃普通の魔法の才能がない子〃よ。〃特別な魔法の才能はある〃のよ。わかりにくいけれど。」

とくべつ……？

「そう。特別。才能があるかもわかりにくいし、その育て方を知っている人間も少ない特別な魔法よ。」

わたし、は、そだてかた、を、しっている、の？

「その通りよ。だから、私の言う通り、ちゃんと訓練をしてほしいの。貴女と私の未来のために。」

うん……。わかり、ました。

「じゃあゆつくり寝なさい。続きは起きてからね？」

はい、始まりました。不遇キャラ育成計画。

今回私が転生いたしましたのは、名高きSRPG系エロゲーでございます。

概要といたしましては、モンスターを生むモンスターであるダンジョンに人類が追い詰められていて、残る国はただ一つ。

そこから人類の復権をかけて戦っていきましょうというダンジョン探索ものですね。

まあ追い詰められていますので、人材を無駄に消費するわけにはいかないわけで。

きちんとダンジョンで戦えるように（人脈づくりの側面もある）、15歳になった少女を中央の学園に集めて教育と訓練を行うことになっております。

というのもこのダンジョンが普通ではなく、人類を無力化することに特化した、いわゆるエロトラップダンジョンというものになってるんですね。

まあモンスターはダンジョンで勝手に増えるので、無力化した人間を苗床にするのではなくサクツと殺しにかかるんですけれど。

まあそんな世界に転生してしまった私、転生先は主人公・・・ではなくメインヒロイン・・・でもなくサブヒロイン。それも幼少期（5歳くらいかな）で人格が残っているところに意識だけの転生というなんとも言えない感じがすごいですよね。

で、この子、オニキス・カーボナイなんですが。見た目はスツゴク可愛い。黒髪ロン

グストレート。雪のような白い肌。気弱そうな表情。身長はやや低め。

ビジュアル的にはメインヒロインと並んで遜色がなく。

立場も『人類最後の砦のひとつ』カーボナイ辺境公爵令嬢という重要ポジ。領内に高難易度ダンジョンがあったりもします。

ただし。戦闘ユニットとしては『使えない』のひと言で終わってしまいうらい不遇。『可愛い足枷』『縛りプレイ御用達』『アイテム役としても上位互換がいる』『強化イベントを経てベンチ』なんてユーザーにも大好評でしたね。

まあでも、〃適性のない魔法の訓練を無駄に頑張っていた設定〃はちらほらと見えてはいたので。これはもう前世のインターネットでさんざん議論された、『オニキスはきちんと適性に沿って鍛えれば実は強いのではないか?』を試さないといけませんね。

でない私も含めて死んでしまいますしね!

はい、そんなわけで。オニキスちゃんにはカーボナイ家に代々伝わる(初代は使えたけれど、そこから習得者は居なかったらしい)魔法の完全修得を目指してもらおうと思います。

ゲームでも半端には使えたのですが、半端すぎてどうしようもなかったのです。

—————

「おはよう、私。良く眠れたかしら？」

おはようございます。．．．ゆめじやなかった．．．。

「そう、夢じやないわ。それで、覚えているかしら？ひとりぼっちで死なないために頑張るとい言葉。」

おぼえてる．．．。わたしは、どうしたらいいの？ア矢の形にして飛ばすローもウォールもできないのに．．．？

「その辺りの魔法のことは忘れなさい。まずはとにかく最大魔力量を上げるのよ。そうね。髪の毛。一本一本丁寧に、魔力を通してみて。」

まりよくを、とおす．．．。

「魔力が練れなくなったら休憩していいわ。あとはお父様に秘伝書を見せてもらいましよう。」

ひでんしよ．．．？

「貴女の特別な魔法が書いている本よ。」

わかった．．．。

はい、そんなわけで。まずは基礎ステータス上げですね。優先するのは最大魔力量^Mと魔法技量^C。

ゲームでもMPがトップだったオニキスちゃんなので、物凄いいことになるはずですよ。
(願望)。

で、秘伝書の方なのですが。

これは彼女の習得していた魔法である『武装解除』に関係してきます。

カーボナイ家秘伝の魔法で、ゲームでは、“一部のモンスターのステータスを確率で固定値分下げる”という効果でした。

はい。ぶつちやけると産廃です。雑魚戦だとこれそのものに出番はないですし、ボスだと“対象になつてるモンスターがほぼいない”“いてもまず成功しない”ので純粹火力もしくは味方への能力値^バ上昇スキル^ッを使いたいところなんですね。

オニキスちゃんは両方使えませんか？

どうも“魔力を飛ばす”“魔力で離れたところに影響を及ぼす”ことができないみたいなんですよ彼女。

『武装解除』はオニキスちゃんから黒い触手がモンスターに向かって伸びるエフェクトでした。

で。成功率が低かったのは出力が足りないからなのでは？となりまして。

出力を上げて精密動作が出来るようになれば『武装解除』も産廃じゃなくなる！といいな、半端で使い物になってないんだったら完全修得すれば使い物になるのでは？との結論になった次第でございます。

あ。読むと魔法を習得できる秘伝書があるのは公式キャラ設定集に書いてありました。キャラ自身が読まないと習得できないので、話が始まらないのですよ。

おつ無事秘伝書を見せてもらえたみたいです。読んでないですけど。

あー。文字が読めないと言得できないんですかー。まずは字を覚えるところからですね。

ねえ、わたし。ちゃんとかみのけいっぽんいっぽんに、まりよくをとおせるようになったわ。

「よくできました。じゃあ次は髪の毛を魔力で動かしてみましようか。目標は指と同じ

くらい細かく動かせるようになること、よ?」

・・・うん。

「読み書きも頑張っているのね、私。偉いわ。」

ありがとう・・・。かいてあったまほうね、なんとなくつかいかたはわかるの。

「予想よりも早いわね。凄いわ。なんとなくでもわかるのなら、すぐにちゃんと使えるようになるわね。」

うん、がんばる・・・。

—————

なんと三ヶ月ちよいでMPが予定より増え、『武装解除』も習得してしまったオニキスちゃんですね。

なんとなくでも使い方がわかるというのは、ゲームで言う熟練度が1になっていると言うことで、つまりは覚えたと判定してよいでしょう。

不安点といたしましては、ステータス画面のスキルリストに『武装解除』の文字がなかったことなんですよね。

『闇蝕手』とかいうヤバそうな魔法はありましたが。まさかこれが秘伝の魔法? いやい

やそんな。エロゲーだからといってヒロインが使っているいい字面じゃないでしょう？

で、あつという間に修業開始から二年くらいが経ち、これが7歳の誕生日を向かえたオニキスちゃんのステータスです。

NAME：オニキス・カーボナイ

HP：60

MP：300

STR：20

VIT：20

TEC：120

MND：300

DEX：70

AGI：20

スキル：魔法『闇蝕手』熟練度30／99

※成人男性の平均がHPMP250その他100程度

つよい（確信）。学園に行くまであと8年くらいあつてこれですからね。どれだけ成

長できるやら。

流石に危険なのでダンジョン探索には連れていってもらっていませんが、もう少し成長すればダンジョンデビューできることでしよう。

あのね、私。わたし、宝箱をちゃんと開けられるようになりたいの。

「どうして?」

しよくしゆならね、離れたところから開けられると思うの。でも。

「やり方がわからないのね。大丈夫よ。貴女が頼めば、騎士団いちの腕利きの罨師だつて協力してくれるわ。」

私は、そう思うの?

「そうよ。貴女の頑張りと能力は、みんな見てくれているわ。」

ありがとう。頼んでみる。

10歳になってダンジョンデビューを果たしたオニクスちゃんですが、宝箱に興味津々な様子ですね。

この宝箱の中身というのはですね、端的に言うとうと遺品です。

ダンジョン内部で死んでしまった人間、その肉体はダンジョンが吸収するのですが、装備品は吸収せずにどこかしらに宝箱の中身として配置されます。その際に少しだけ強化されることもあり、それで他の人間を誘き寄せるわけですね。

“人間として開けざるを得ない”ので、ダンジョンもそれをわかってか100%の確率で罠を仕掛けています。

罠の種類も毒矢、催淫ガス、酩酊ガス、麻痺電流、腐食の霧、宝箱ミに潜むミツモンスターなど多岐にわたり、中身を駄目にしないためにも、解除技能というのは必要なわけです。『闇蝕手』は本人中心に20m程伸ばせるようになっていて、そこそこ精密に動かせるようになりました。

なので遠距離からの罠解除ができないかは試してもらいたかったですよね。

どう言いく・・・説得して罠解除技能を取ってもらおうかを考えていましたが、彼女の方から言い出してくれるとはありがたいです。

そんなわけで、領内最高の罠師に必死に頼み込むオニクスちゃんを眺めて癒されま

す。

うんうん、無事に師事出来ましたね。

さて。余談なのですが、ダンジョンの奥地で予備武器を1〜2本置いて帰り、次のダンジョンアタックで回収するなんてテクニクもあつたりします。

装備は吸収されず強化されますから。

数が多いと強化の度合いが減るので注意ですね。

罨解除技能を習いはじめて三ヶ月。そこには蝕手でミミックを搾り上げるオニキスちゃんの姿が！『闇蝕手』えつぐい。

速度があるわけではないので徘徊するモンスターには避けられていますが、捕まえれば死なので動かないミミックには効果が高いですね。

これが産廃魔法だとは信じられませんね。

遠距離からの罨解除はほぼほぼ成功するようになり、公爵軍の武器も少数だけグレイドアツプ出来ましたね。

みんなオニキスちゃんを愛そうね？

そして運命の日、学園の入学式がやって参りました。

首席で入学して新入生代表の挨拶をしているのは・・・主人公君ですね。ご立派。

クラス分けはっと。やっぱり主人公やメインヒロインと同じクラスになりましたね。
さあ自己紹介、オニキスちゃんの番です。

ガツンとかましてやりましょう！

「皆様、初めまして。オニキス・カーボナイと申します。得意なことは索敵と罠の解除と
ミミックの処理。直接戦闘には自身がありませんが、どうぞよろしく願います。」
うんうん、淑女らしい振る舞いもバツチリで、掴みはオツケーですね。

さあ、公爵領を救い、国を救い、人類を救いましょう！